

平成24年度

教育委員会点検・評価報告書

下呂市教育委員会

平成25年10月

はじめに

下呂市では、下呂市第一次総合計画の教育分野において、豊かな市民社会を実現するため、「人が育ち・行動する“まち”をめざして」の基本方針のもと、明日の下呂市を担う人づくりに取り組んでいます。

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正（平成20年4月1日施行）され、各教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することとされました。

下呂市教育委員会では毎年、「学校教育」、「社会教育」の各分野における方針と重点を定め、各種施策に取り組んできました。

これらの各項目についての内部評価を行い、外部からは、各課が所管する諸団体のご意見を頂き、これを外部評価とさせていただきました。

平成25年10月

下呂市教育委員会

平成24年度「学校教育の方針と重点」についての点検・評価

(1) 下呂市小・中学校教育指導の方針と重点についての内部評価

(方 針)

- ◇ 児童生徒の個性を生かし、一人一人に「生きる力」をはぐくむ教育を推進する
- ◇ 学校の教育目標の具現に徹し、地域に信頼される学校経営を推進する

《魅力ある学校づくりのための設定指標》

- ◇ 「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」を85%以上にする
 - ◇ 「授業の内容が分かり易いと答える児童生徒の割合」を85%以上にする
- ※「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」等と回答した児童生徒に目を向けた指導や支援を充実させる。

【指標】 学校が楽しいと感じる児童生徒の割合

区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
目 標	75.0	76.0	77.0	78.0	80.0	82.0	82.0	85.0
実 績	91.0	90.8	92.4	92.2	94.0	93.8	93.7	94.2

【指標】 授業の内容が「分かり易い」と答える児童生徒の割合

区 分	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
目 標	75.0	76.0	77.0	78.0	80.0	82.0	82.0	85.0
実 績	90.0	88.9	90.4	91.7	92.6	93.7	94.1	94.0

(総 評)

各学校においては、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成を目指し、家庭・地域と一体となって学校経営に取り組んだ。管理職の指導のもと、児童生徒の個性を生かし、「確かな学力」、「豊かな心」、「健康な体」を育む、調和のとれた教育の充実を図れるよう、学校を支援した。

・市教委と学校との連携による学校教育の推進 ・市教委訪問における指導助言 ・財政支援

上記の指標実績のとおり、9割以上の児童生徒が学校生活に満足感、授業への充実感を得ているととらえる。また、不登校児童生徒の状況も、平成24年度は増加したが、出現率は県や全国と比較すると少なく、各学校において豊かな学校教育活動が展開されているものととらえる。

【不登校児童生徒数】（病気以外の理由で30日以上欠席した児童生徒数）

16年度：小8人 中12人＜計20人＞ 17年度：小7人 中16人＜計23人＞ 18年度：小2人 中18人＜計20人＞
 19年度：小3人 中23人＜計26人＞ 20年度：小2人 中27人＜計29人＞ 21年度：小3人 中16人＜計19人＞
 22年度：小2人 中11人＜計13人＞ 23年度：小1人 中13人＜計14人＞ 24年度：小3人 中19人＜計22人＞

【1000人あたりの不登校児童生徒数】

21年度:全国（小3.2人 中27.7人） 岐阜県（小4.2人 中29.7人） 下呂市（小1.5人 中14.5人）
 22年度:全国（小3.2人 中27.4人） 岐阜県（小4.2人 中29.7人） 下呂市（小1.1人 中10.3人）
 23年度:全国（小3.3人 中26.4人） 岐阜県（小4.1人 中26.6人） 下呂市（小0.6人 中12.2人）
 24年度:全国（小3.3人 中26.5人） 岐阜県（小4.0人 中26.6人） 下呂市（小1.7人 中18.2人）

今後は、「学校が楽しい」「授業の内容が分かり易い」と答えていない、約1割の児童生徒に焦点をあてたきめ細やかな指導による児童生徒の学力向上を図ること。H22・23年度文部科学省指定の不登校未然防止に取り組んだ萩原南中学校・萩原小学校、H24・25年度文部科学省指定の人権教育に取り組んだ下呂小学校・下呂中学校の研究の成果を下呂市内に広げることを通して、市内全小中学校が「学校へ来るのが楽しい」といえる魅力ある学校づくり（不登校や問題行動に対する未然防止）を進めること。「危機管理対応マニュアル」等を整備し、安全・安心な学校づくりを進めること。特別支援教育の校内体制を一層充実させ、自立し社会参加できる力を身につけさせる支援を進めること等が大切であると考えます。

◇「確かな学力」の定着を図る指導の充実

○教科指導においては、特に、授業の終末に視点をあて、児童生徒の発達の段階や一人一人の学力、学習状況を把握し、「できた」「わかった」という自らの高まりを実感し、充実感を感じられるよう確実な評価の実施に心がけた。そして、こうした授業の終末の子どもの姿を生み出すべく授業改善に取り組んだ。また、算数・数学、英語を中心に少人数指導の充実を図り、個の学習状況に応じたきめ細かな指導を行った。

・県の加配等(常勤・非常勤)を配置し少人数指導を実施し、一人一人に応じた指導を行っている。
また、教務主任や教頭等が授業に入り、学校独自の努力で一人一人に応じたきめ細かな指導を行っている。

少人数指導加配配置校：萩原小、下呂小、竹原小、萩原南中、小坂中、下呂中、竹原中、金山中
(少人数常勤講師：9人 少人数非常勤講師6名)

- ・複式学級における教科担任や中学校の免許外指導解消のため、県費非常勤講師を配置し授業の充実に努めている。(小学校教科担任5名、中学校免許外指導解消4名)
- ・授業の終末において、評価問題や補充問題を活用し、確かな学力の定着に努めている。
- ・パソコンや具体物を活用した授業、終末から指導過程を工夫する授業等を交流し、授業研究に努めている。
- ・下呂市嘱託研究委員会では、授業の中での指導のポイントや具体的な手立てを示したリーフレット「確かな学力をつけるための授業をめざして」を作成し、市内の全教員に配布し活用していただいている。
- ・全国学力・学習状況調査、岐阜県学習状況調査やC R T調査をもとに、各校において指導の成果と課題を客観的に確認している。

○発達段階に応じた「聞く・話す・書く・読む」を中心とした学習の基本的な学び方づくりに力を入れ学ぶ意欲の高い学習集団の育成に努めた。

・市内全小中学校が学習の基本的な学び方づくりに取り組み、基本的な学習姿勢が定着している。
5つの地域毎に小中学校が連携をして、発達に応じた「話し方、聞き方等」の学び方の段階を明確にし、学習姿勢の定着を図っている。小中学校が連携をして取り組んでいることで、小学校卒業時や中学校卒業時の児童生徒の姿が明確になり、義務教育9年間を見通した学習習慣づくりが行われている。

○平成23年度には小学校が、平成24年度には中学校が新学習指導要領の完全実施となり、改訂の趣旨を踏まえた教育計画の編成や指導方法の改善を図っている。

- ・教育課程研究会や様々な研究会を通して、新しい指導要領の趣旨や改善点等について確認し、各学校でも研究会を設け指導方法の改善に努めている。
- ・指導書や教材を新規購入し、学習指導の充実を図った。

○進路指導においては、計画的に体験活動を位置づけ、望ましい勤労観や職業観が身につくよう指導を工夫した。特に、中学校の職場体験学習では、一人一事業所において体験することにより、自己の能力・適性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択できるよう指導・援助した。

- ・全中学校において、職場体験学習を実施した。それぞれの学校では、極力一人一事業所を目標として、望ましい勤労観や職業観が身につくよう地域の事業所の協力をいただきながら、体験活動を行っている。

○特別支援教育においては、全教職員が一人一人の児童生徒の教育的ニーズを正しく理解し、校内委員会の充実を図り、全校体制で指導するように努めた。また、学業支援員（特別支援教育）の配置により、特別な支援を要する児童生徒を担当する教員の指導に対して支援を図った。また、一人一人の指導の方向性を示し、卒業時に付けたい力や卒業後の進路を見通した「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の充実に努めた。

- ・学校においては、特に保護者と担任とが密接に連携をとり、児童生徒の実態に応じて学習支援や生活支援を行っている。また、関係機関と連携したり客観テストを活用したりして本人の特性、理解度等に応じた指導を、全校体制で行っている。
- ・市内小中学校に言語通級指導教室2校2学級、LD/ADHD等通級指導教室4校4学級を開設し、児童生徒の困り感に応じた、個別の指導を行っている。（H25年度に向けて新たにLD/ADHD等通級指導教室1校1学級の新設希望を出し、認可されている）
- ・学業支援員を配置し集団の中で個別の指導を必要とする児童生徒に対応をしている。
（特別支援教育・不登校対策学業支援員 24名配置）

◇ 豊かな心と健康な体の育成

○道徳教育においては、心に響く道徳の時間の一層の充実を図るとともに、地域や学校の特色を生かした豊かな体験活動を通して、児童生徒の道徳性を高めるよう努めた。

- ・年35時間の道徳の時間を要とし、全教育活動と関連付けながら計画的に実施している。
- ・飛騨教育事務所の道徳教育計画訪問を機会に、中学校区で学校間の授業公開を行い、道徳の時間の充実に努めた。（平成24年度道徳教育計画訪問実施校：尾崎小、中原小、下原小、菅田小、馬瀬小、萩原南中、竹原中）
- ・各教科と道徳の授業の関連を明確にした道徳教育の全体計画別葉の作成を行った。
- ・道徳の時間の指導を通じて学んだ道徳性を地域や学校における実践（体験活動）で確かな実践力とするよう努力している。

○特別活動においては、諸問題を解決する活動を通して、児童生徒による自発的、自治的な活動を展開し、集団の一員としての自覚を深めることにより、一人一人に存在感があり、心が通い合う学級づくりに努めた。

- ・学級を集団生活の母体とし、学校生活の向上や望ましい集団生活の構築のために、学級活動の充実を図った。また、児童会・生徒会活動による挨拶運動、清掃活動等自治的活動を展開し、学校生活の向上をめざした。
- ・上記実践の積み重ねの中で、どの子にも感じてほしい「学校に来るのが楽しい」という居心地の良さや所属感を観点にした評価に努めた。このことが不登校やいじめの未然防止につながると考える。

○健康教育においては、児童生徒の健康状況を的確に把握するように努め、自主的に健康管理できる能力や態度が育つよう、指導の工夫改善を図った。平成21年度に文部科学省指定を受けた小坂地域における食育推進事業においては、栄養教諭を中核として、学校・家庭・地域が連携した食育の充実について研究を深めた。その成果を継続的に下呂市の各小中学校に広めている。

- ・各学校においては、毎朝、児童生徒の健康観察を実施している。また、保護者との連携を密にし、児童生徒の的確な健康状態の把握に努めている。昨今増加してきているアナフィラキシーショック等についての対応について、職員研修も進めている。
- ・安全や危機管理意識の向上を目指し、学級活動・全校集会・避難訓練や交通安全教室などの学校行事を通して具体的な指導を行った。

○いじめ、不登校、その他の問題行動に対する対応

下呂市教育委員会は、次のような基本姿勢をもって指導助言にあたっている。

※「**子どもは間違い(失敗)を犯しながら成長していく存在である。**」

※「問題があることが問題ではなく、どう対応(関わる)するかが問題である。」

※存在感、自己有能感、自己有用感、→ 自己肯定感を高めることを大切にする。

※「見えている事象(サイン)が見えない者は、見づらいいじめ等の事象をキャッチすることはむずかしい。」

日々の全ての教育活動で『気にかける(まなざし、声かけ、ふれあい)指導』を大切にする！

※保護者、地域との理解と協力 (情報共有)

管理職のリーダーシップのもと、教職員が上記基本姿勢を大切に信頼と愛情に基づく適切な対応ができるよう、生徒指導主事・教育相談主任等を中心とした組織的な生徒指導・教育相談の充実を図った。特に、いじめ、不登校、問題行動対応については、全職員が共通理解のもとに組織的に対応し、未然防止・早期指導の徹底に努めた。また、教育相談員の配置により、不登校・不登校傾向の児童生徒への個別的な支援に努めた。

萩原中学校区において2年間(H22～H23)文部科学省の指定を受け研究を進めてきた不登校未然防止のための「魅力ある学校づくり」の成果は、市内各校に広まりつつある。また、平成24年度から2年間文部科学省の指定を受けている下呂小学校、下呂中学校の人権教育の取り組みを今後広めていきたい。

【いじめの実態】

- ・いじめの未然防止→お互いを思いやり、仲間を大切にする指導の充実といじめは人として絶対許されないという意識の高揚を図っている。（仲間と力を合わせやり遂げる活動の重視等）
- ・心理検査や生活アンケート、精神健康度調査等を実施し早期発見・早期対応に努めている。
- ・教育委員会は、各学校より随時、また毎月事案の報告を受け、早期対応の指導助言に努めている。
- ・スクール相談員、スクールカウンセラー等の専門家との連携により心のケアに努めている。

【下呂市小中学校のいじめの認知件数】 22年度：15件 23年度：24件 24年度：30件

【22年度1000人あたりの認知件数】 全国：5.5人 岐阜県：15.2人 下呂市：5.1人

【23年度1000人あたりの認知件数】 全国：5.0人 岐阜県：12.2人 下呂市：8.3人

【24年度1000人あたりの認知件数】 全国：未発表人 岐阜県：未発表人 下呂市：10.7人

岐阜県、下呂市ともいじめの認知件数が全国を上回っているが、視点を変えると、この数値は下呂市の各小中学校が危機意識をもち、敏感にいじめを感知し、「これくらいは・・・」で片付けず教育委員会とも連携をとりながら早期対応に努めているからこそこの値だと分析している。

【不登校の実態】

- ・各小中学校においては、「新たな不登校を生み出さない」として一人一人が集団の中で良さや弱さを認め合い、安心して生活できる居心地のよい学校づくりに努めている。その成果もあり、市内の不登校児童生徒（病気以外で年間30日以上欠席）は、全国、県と比較して少ない。特に、中学校での出現率は非常に少ない。

（20年度＝29人、21年度＝19人、22年度＝13人、23年度＝14人、24年度＝13人）

- ・学業支援員（不登校対策・教育相談）を、小中合わせて8名配置（事務局に1人）している。（再掲）

【下呂市小中学校の不登校児童生徒数】 22年度：小2人、中11人、計13人

23年度：小1人、中13人、計14人

24年度：小3人、中19人、計22人

【22年度1000人あたりの不登校児童生徒数】

全国：小3.2人、中27.4人 岐阜県：小4.2人、中29.7人 下呂市：小1.1人、中10.3人

【23年度1000人あたりの不登校児童生徒数】

全国：小3.3人 中26.4人 岐阜県：小4.1人 中26.6人 下呂市：小0.6人、中12.2人

【24年度1000人あたりの不登校児童生徒数】

全国：小3.3人 中26.5人 岐阜県：小4.0人 中26.6人 下呂市：小1.7人、中18.2人

◇ 特色ある教育活動の推進

- 小中学校にALT6名を配置し、ALTとの連携による英語学習や平成23年度より導入された小学校5・6年生における外国語活動において、外国語への関心・意欲やコミュニケーション能力の向上を図った。また、小学校では、1～4年生においてもALTを活用して英語のコミュニケーション活動を実施

している。

○コンピュータの積極的な活用を推進し、情報を主体的に選択・活用できる能力を養うとともに、情報モラルの向上に努めた。

- ・各学校において情報教育の年間計画に沿って児童生徒への指導に取り組んでいる。また、近年課題となっている「インターネット、メール・SNS等の活用」について、被害者のみならず加害者となる危険性から児童生徒を守るべく、児童生徒はもちろん保護者に対しても啓発活動(研修)を行っている。

○図書整理員の配置により日常的な図書館利用を推進し、読書に親しむ機会を増やすとともに、読書や読み聞かせ等の活動を積極的に行った。

- ・平成24年度は5名の図書整理員を配置した。
- ・飛騨地区学校図書館教育推進事業を積極的に活用し(毎年順に実践校を指定)、学校図書館の整備と活用を促進している。平成24年度は下原小学校が総合優秀賞を受賞した。
- ・ボランティアによる読み聞かせ活動が各学校において活発に行われている。

○森林教室等、環境保全について主体的に考える体験的な活動を支援し、環境問題の意識化を図った。

- ・小学校では、外部の講師を招き森林教室を行った。また、位山自然の家において宿泊し、森林体験学習を行い、森林の保全や自然を大切にする心を育てる学習を行った。
森林教室 小学校8校が実施 位山自然の家での体験学習 小学校11校が実施

◇ 地域に信頼される学校づくり

○管理職は、その指導性を発揮し、自己啓発面談等を通して全職員の目的意識を高めるとともに、学校や地域の特色を生かした創意ある教育活動の推進に努めた。

- ・現在、各学校は年間3回程度の校長と職員の面談機会をもち、教科指導や生活指導における諸問題や個々の対処について、具体的な目標や指導の手立てを明らかにし指導をしている。
- ・各学校とも、児童・保護者や地域の方からのアンケート等(学校評価)を実施し、学校評議員の方からもご意見をいただきながら、教育指導や教育実践について改善を図っている。
- ・学校行事や学年行事等において、地域の特色を生かした教育を実践し、郷土に誇りと愛着を持つ心を培っている。(地域の人材講師、稲作づくり、なわなない作業、桜等見学、山登り、宿泊体験、名所見学 等)

○下呂市教育研究所による研修事業を工夫し、教職員の指導力を高める支援を図った。

- ・教科指導関係、情報教育関係、法令関係、特別支援教育関係など教職員のニーズを考慮し、例年数講座を設定して、研修を深めている。

平成24年度	夏季の実践講座	9講座開設	294名参加
	秋・冬季の実践講座	8講座開設	116名参加

○児童生徒の安全を第一に考え、危機管理マニュアルや気象警報等発表時の対応について見直しを行った。

- ・登校時を想定した訓練を計画し、下呂市防災訓練へ参加した。
- ・災害時に備え、児童生徒の保護者への受け渡し訓練を行った。
- ・気象警報発表時の対応について確認した。「早い段階で判断する」「児童生徒のみでは下校させない」「定期的に受け渡し等の訓練を実施する」を基本とし、児童生徒の安全を第一に考えた対応がとれるようにした。

○下呂市スクールサポーター事業の継続・強化を図り、学校内外における不審者等に対する児童生徒の安全確保に努め、危機管理体制の充実を図った。

- ・警察出身のスクールガードリーダー2名をお願いし、支部ごとに校長会代表者に年間2回ほど集まっていただき、情報交換やリーダーからの助言を受け、各学校へ伝達して児童生徒の安全に寄与している。
- ・各支部では、警察官やスクールガードリーダーの講演などを計画し、スクールサポーターの活動を推進している。
- ・スクールサポーターを募集し、児童生徒の登下校等に関する見守り活動をお願いしている。

○下呂市教育研究所ホームページの充実を図り、各学校の教育方針や活動について情報発信するとともに、自己評価や学校関係者評価（外部評価）等を学校経営の改善に生かし、開かれた学校づくりを推進した。

- ・下呂市教育研究所ホームページには、各学校の活動について学校だよりや写真を掲載して情報発信を継続して行ってきた。情報内容も年々充実し、年間のアクセスは、約10万件に達した。
- ・各学校では、児童生徒、教職員、保護者、学校評議員等へのアンケート調査により教育活動について定期的に評価し、成果・課題を明確にして学校経営に生かしている。また、評価結果については、保護者や地域に公開し、開かれた学校経営を進めている。

○体罰の禁止及び児童生徒理解に基づく指導の徹底について

平成24年度には、部活動中の体罰を背景とした高校生の自殺事案が発生する等、我々教職員の指導について、改めて自らを厳しくふりかえる時となった。

H24体罰件数（全児童生徒アンケート調査・全教職員聞き取り調査・全保護者情報提供、相談依頼）

○児童生徒の訴え3件、教職員の申告3件(いずれも同事案)

- ・授業中無駄話をしていた2人の児童の頭と頭をもって、互いにゴツン(小学校)
- ・部活動中、仲間に対して文句・不平を発した生徒に対して注意したが、素直な物言いでない言葉を発したため、平手で頭をたたく(中学校)
- ・授業中、パソコンで調べ学習中、関係ない画面を出し見ていたので注意したが、素直な物言いではなく、反省の色がなかったため、椅子の脚を蹴る(本人は椅子の脚と自分の足を同時に蹴られた言う)(中学校)

○その他、スポーツ少年団活動等での体罰の訴えが5件

下呂市教育委員会としては、問題行動等が起きたときには十分な教育的配慮のもと、毅然とした対応はとりつつも、「体罰」は決して許されないことであり、決してあってはならないことであるととらえている。体罰では、児童生徒の正常な倫理観を養うことはできない。むしろ、力による問題解決への志向を助長させ、強いてはいじめや暴力行為等を是認させる土壌を生む恐れもある。体罰は指導や教育ではなく暴力行為であり、いかなる場面においても許されるものではないことを各学校に指導している。本年度、全教職員に研修資料「不祥事根絶のために～師であることを胸に刻んで～」 「体罰を根絶する学校」を配布し、各学校において職員研修を実施した。また、職員一人一人が体罰を含む不祥事根絶に向けて、「チェックシート」(県教委作成)により自己点検、各校の重点課題を確認しあい、不祥事根絶に向かって取り組んでいる。

(2) 教育環境の整備と充実

○育英資金活用事業や要保護・準要保護就学援助事業により、経済的・身体的な理由により就学、進学が困難な児童生徒に対する就学支援の充実を図った。

・24年度 小学生114名、中学生81名

○改築、修繕関係

- ① 竹原小学校の屋内運動場改築工事を実施した。
- ② 萩原小学校屋内運動場改築工事を実施した。
- ③ 下原小学校校舎耐震補強工事を実施した。
- ④ 宮田小学校屋内運動場耐震補強工事を実施した。
- ⑤ 下呂小学校屋内運動場改築に伴い、倉庫改築・外構工事等を実施した。
- ⑥ 東第一小学校校舎・屋内運動場改築工事を実施した。
- ⑦ 各小中学校の施設維持修繕に関して、優先度を考慮しながら修繕対応を進めた。

(3) 【各学校における学校関係者評価委員会の意見（平成24年度抜粋）】

①学校運営について

- 「学校が楽しい」「学習が分かる」指標が95%以上を達成。1学期よりも自己評価やアンケート結果が向上し、こんな学校に子供を預けられて安心である。
- 設定指標で子供・保護者・教師共に高い評価をしていることは、最高の事実である。
- 子供の願いをかなえる、子供に親身になって対応する先生がいることがありがたい。
- 生徒への力の定着が卒業学年になるにつれてレベルが高くなっている。学校の力が大きい。
- ※生徒は授業や部活動で鍛えられている。夜間の体育活動もあり、息苦しいのではないかと思うことがある。

②学習指導について

- 算数のコース分け学習は、先生方の人手が必要だが子供にとってはありがたい。先生方にはよくやっていただき、感謝したい。
- たった一人に対しても、家庭でやるべき宿題に対しても担任がよくサポートをしているのはすごい。十分やってもらっている。
- 非常にレベルの高い合唱だった。3年生の合唱は、2年生の時より明らかに臨む姿勢が違っていた。
- 特別支援学級の児童生徒や、特別な支援を必要とする児童生徒に対して、きめ細かな指導がされている。
- ※考えて、しっかり説明できる力を付けて行きたい。
- ※少人数の学校はたくましさ欠缺けるとい声があるが、逆に体験が増える分、たくましさが増すと考えている。少人数の良さを発信してほしい。

③生活指導について

- いじめを始めとした様々な問題を早期発見・対応できたことはよかった。
- 子供の良さを見つけ認め合う活動はとてもよい。メッセージに偏りがないように配慮をお願いしたい。
- 教室に入ると、ほっこりとした温かさを感じる。先生方の温かい指導のおかげ。不登校がないことにもつながっている。
- 地域での挨拶がよくできているし、来訪時のマナーや行儀がよくなっている(靴そろえ・声のかけ合い)。また、小学校だけでなく、中学生・高校生の挨拶もよくなっている。
- 教室の掲示が教師と生徒の力で整備され、学校生活の足跡がとてもよく分かった。
- ※みんなが大きな声で返事や挨拶ができるようになってほしい。
- ※善悪の判断や互いに高め合うなど、社会に出て困らない力を付けてやりたい。
- ※ネットに関しては、子供の意識と親の意識とのずれが大きな問題になっている。保護者の協力がなければ歯止めをかけることはできない。今年度は研修会を行ったが、来年度以降も重要なテーマとして取り上げていきたい。

④家庭・地域等との連携

- 子供が学習したり活動したりする様子を見せてもらえて、頑張っていることがよく分かった。
- ※どのように取り組むと多くの保護者が参加するかを考え改善していく必要がある。

【各学校における学校関係者評価委員会の意見（平成24年度抜粋）】

※子供たちの頑張っている姿を「運動会」同様にもっと多くの地域の方に見てもらいたい。

他の行事も土・日に行ったらどうか。

※どのように取り組むと多くの保護者が参加するかを考え改善していく必要がある。

※学校だけではできないことを、地域や保護者で協力していきたい。（通学の安全上、通学路の雪かきは是非はたらきかけるとよい）

※下呂市の高齢化率は岐阜県で3番目。太鼓クラブの指導者の方は、その指導を通してふるさとを大事にしてほしいと願っているそうである。「下呂市には仕事がない」ことを理由にしないようにしたい。

※保護者も子供と一緒に道德の授業を受けるとよい。地域の人から学んだり、地域の人と一緒に学んだりすることがより良い道德教育になるのではないか。

※統合の成功は、学校だけでなく地域の方々の声も聴く必要がある。

※保小中の連携を大切にしてほしい。互いに授業を見合うなどの取り組みを進めてはどうか。

平成 24 年度「社会教育の方針と重点」についての点検・評価

(方 針)

- ◇『豊かな市民生活をめざす社会教育の推進』を目標として、その具現化のため、以下の 4 つの重点を柱として事業を推進した。

(重 点)

- ◇ 地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育 む】
- ◇ 市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】
- ◇ 市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学 ぶ】
- ◇ だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】

(総 評)

社会教育は、学校教育の教育課程として行われる教育活動を除く、青少年・成人に対する生涯学習活動を積極的に支援する責務があります。社会教育課が所管する事業、施設は広範囲におよぶため、それらを有効に活用して市民のそれぞれのライフステージにおける役割を明確にして、事業の実施にあたらなければなりません。課員はこのことを自覚し、以下に述べるそれぞれの事業を実施しました。

◇地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育 む】

①家庭教育機能の充実

- ・家庭教育における子育て支援として学習機会の充実を図るため、子育て講演会、乳幼児期・幼児期並びに小中学校保護者対象の親まなび講座、命のふれあい講座、を開催すると共に、家庭教育支援チームによる子育て支援を行った。

(親まなび講座)

- ・乳幼児・幼児期の家庭教育として、市内全域を対象に親まなび講座を実施。子育て世代どなたも参加できる環境で実施した。

(子育て講演会等の開催)

- ・子育て支援講演会は、毎年、家庭での子育ての不安や悩みを解消することにつながるような講演会を行っている。今年度は、食育への関心が高まっている事から、健康課と合同で食育に関する講演会を開催。弁当の日の取り組みから、人づくり・地域づくりとの関わり方などをご講義いただいた。

今後も「聞いてみたい」と思える講演会のための講師選択や、開催時間・開催場所等について工夫を重ねて行くと共に、関係機関と協力していきたい。

(家庭教育支援総合整備事業)

- ・児童少年期の家庭教育については、募集型ではなかなか参加者が集まらないため、保護者の集まる小中学校単位による講座実施に転換し、支援事業として継続して取り組む。

・命のふれあい講座事業

市内全中学 3 年生を対象に、自他の生命の大切さや親や家族のあり方や役割について学び、近い将来親になるであろう中学生に対し「家庭教育」の重要性を早く認識させることを目的に「命のふれあい講座」を実施

した。

- ・家庭教育支援事業

子育て中の親や保護者の子育て不安の軽減や孤立を防ぐため、子育て経験者や専門家との連携により、きめ細かな相談体制の確立を図った。

金山地域では、3～4ヶ月、8～9ヶ月健診の際、保護者同士または保護者と支援チームの語り合いの場をつくるために、赤ちゃんカフェ・カナヤマンカフェを実施した。

「UP カフェ」を年8回実施すると共に、市内全域へのサービス拡充のため、新たに金山地域でも開催した。広報活動として、金山地域は「カナヤマン」、小坂地域は「小太郎だより」を作成発行。小中学校・保育園を通して保護者に配布を行った。今後は市内全域へ広めたい。

- ・企業内家庭教育研修

飛騨教育事務所と協力して、市内の一般企業にて家庭教育研修を受ける事業を展開。親まなび講座などへの研修に出席できない家庭も多いことから、企業へ講師を派遣し教育支援を行った。

24年度は萩原・金山地域から2社の協力を得ることができた。今後も幅広く周知を行い多くの企業が参加できる体制作りを行う。

② 地域活動の促進と地域社会における教育力の向上

（青少年教育）

- ・下呂市青少年育成市民会議を開催し、大会決議の採択、少年の主張の発表、青少年育成顕彰（わかあゆ賞）表彰式を行い、青少年の奉仕・体験活動・地域行事等への参加の機会づくりの充実を図った。

また、秋には青少年の国際的視野並びに国際感覚の醸成を目的とした、英語スピーチコンテストを実施した。

（青少年健全育成）

- ・ジュニアリーダーや指導者、学校教職員及び地域の関係諸団体と連携・協力して、各地域でのキャンプ体験活動、市内小中学生が野外活動のもとで、学年が違う仲間たちと共同生活や未体験活動を行う中で、忍耐力や自立心・協調性などの心の豊かさを身につけることを目的とした下呂市交流キャンプ、親子わくわく科学体験教室（夏季の部・冬季の部）を実施した。なお、天体観測は天候不良により中止となった。
- ・各地域において成人式を開催し、地域で青少年を見守り、健全に育てていこうとする気運を高めた。新成人360人が出席した。
- ・下呂市中学生国際交流事業として、アメリカ合衆国姉妹都市であるアラスカ州ケチカン市とフロリダ州ペンサコーラ市への中学生派遣を実施。また、相手側からの訪問団受入れ等の相互交流及び同地域からの国際交流員2名の雇用を継続し、青少年の国際感覚の醸成を図った。

○第26回ケチカン市派遣事業

派遣先：アメリカ合衆国アラスカ州ケチカン市

派遣人員：中学年生14名 引率者3名

派遣時期：平成25年3月27日（水）～4月6日（土）

（ペンサコーラ市への派遣事業については、同市でイースター行事（キリスト復活祭）が行われることにより派遣を3月末実施から4月へと延期したため、平成24年度は未実施となった。）

- ・岐阜県青少年健全育成条例に基づき、市内の書店、コンビニエンスストア、カラオケ店、金物店を月に一度巡回して立入調査を行い、青少年の健全育成のため有害図書や深夜の入店、刃物の販売について状況を調べ、指導等を行った。

◇市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】

① 文化・芸術活動の振興

- ・文化協会活動補助事業により文化・芸術関係団体の自主的な運営を促進し、平成24年度に初めて下呂市文化祭展示の部を開催した。また、無形文化財及び無形民俗文化財の現地公開事業などにより地歌舞伎公演や第12回岐阜県獅子芝居公演への参加など、市民に優れた文化・芸術にふれる機会の提供や、発表の機会づくりなどの支援を行なった。

② 指定文化財の保存

- ・指定文化財(国、県、市指定文化財、合計503件：25年3月31日現在)を適切に保護し、普及・啓発を図るため、文化財保護巡視員の協力を得て、市内各所の文化財及び愛護標柱の異常の早期発見に努めることができた。
平成24年度は、愛護標柱19カ所及び説明板3カ所の更新及び新規設置を行い、「重要無形民俗文化財」の伝承について現地公開に4件、「市指定文化財」の保存修理・維持に関し3件の補助を行った。
- ・天然記念物枯死に伴う2件の滅失(指定解除)があったが、新たに建造物1件、彫刻1件の文化財指定を行い、貴重な文化遺産の保護が図られた。

③ 市内の遺跡や史跡を保護し、普及・啓発を図る

1) 埋蔵文化財の保護と新遺跡地図の作成事業

平成24年度は、埋蔵文化財包蔵地の照会が59件、文化財保護法第93条・第94条による開発工事等に先立つ届出・通知の結果、試掘調査を2件、立会調査を2件、慎重工事の要請を1件実施した。いずれも、本発掘調査を必要とする範囲ではなかった。

また、平成24年度から5ヶ年計画で、70年代の古式の遺跡地図を一新して、新遺跡地図の作成に着手した。平成24年度には、下呂・金山2地域を完了し、平成25年度には萩原地域を対象に事業を実施する。事業完了により、土地条件に対する迅速な回答が期待される。

2) 記録保存のための発掘調査報告書作成作業

【大林遺跡】個人住宅建設(下呂市小川)に先立ち、平成22年度に本発掘調査を行い、記録保存を実施した大林遺跡については、現在、発掘調査報告書作成のための出土品整理作業を実施している。平成24年度に発掘調査報告書の編集と有識者による指導を受け、平成25年度に報告書原稿の執筆と印刷用原版編集(委託)を行い、平成26年度に発掘調査報告書を刊行する。

【諏訪城跡】平成22年度から諏訪神社参道付近にて露出する諏訪城跡の葺石が崩落する懸念があり、その保護のための対策が必要になっていた。史跡の保護すべき範囲を確定するために、平成24年12月19日～22日に範囲確認のための発掘調査を実施した。平成25年度に岐阜県からの補助を受け、葺石崩落防止のための保護工事を実施する。また、範囲確認調査結果の報告書は、平成26年度に刊行する。

発掘調査報告書の成果は、博物館における企画展にて積極公開し、利活用を促進させたい。

④ 博物館における歴史資料の保管体制の充実と、その公開を図る。

1) 全体的な事項

平成24年3月23日に社会教育委員会から頂いた「提言書」について、特に是正が求められた点に「博物館等施設の使用料(入館料)の基準統一」がある。今もなお、旧町村時代の各館使用料を適用し料金徴収しているため、その点については是正が求められた。提言書を受けて後、課では引き続き是正の検討を行った。

2) 下呂ふるさと歴史記念館の事業

ア) 企画展事業

歴史記念館 40 周年展と、土器製作クラブによる作品展の 2 回の企画展を実施。市民、観光客、研究者向けに、長期間眠っていた埋蔵文化財の出土品を公開し、その歴史的価値を PR することができた。

- ・ 2012.4.28～7.8 下呂ふるさと歴史記念館開館 40 周年記念特別展「縄文・峰一合遺跡の時代」
- ・ 2012.9.15～11.4 下呂ふるさと歴史記念館秋季作品展「縄文土器を作る」

イ) 成果普及事業（講演会等）

歴史記念館 40 周年を記念して研究者によるシンポジウムを開催。峰一合遺跡を再確認することができた。アンケート調査の結果、5 段階評価中 4.4pt で成果普及事業の定期開催を望む声があったため、平成 25 年度にも「文化財講演会」として市内 3 ヶ所にて成果普及講演会を実施する。

- ・ 2012.7.7 下呂ふるさと歴史記念館開館 40 周年記念シンポジウム
「縄文・峰一合遺跡の時代の再検討」会場：下呂交流会館マルチスタジオ
参加：のべ 150 人
司会：長田友也氏（南山大学）
発表者：大石崇史氏（飛騨高山まちの博物館）、鈴木康二氏（滋賀県文化財保護協会）、中村賢太郎（パレオ・ラボ）、市職員

ウ) 連携推進合同展示プロジェクト

下呂ふるさと歴史記念館の生涯学習及び調査研究の拠点化推進、市村連携推進に向けて、飛騨地方全域を対象とした行政職員による合同の展示プロジェクトを実施中。各自治体が保有する文化財資料を合同で調査・研究し、市村単独では不可能な広い視野から見た事業成果を目指している。成果は展示や講演会等で公開する。平成 24 年度～平成 25 年度の 2 ヶ年を期間として、「古代飛騨を考える一人・道・祈り」をテーマとする。平成 27 年度春季に下呂ふるさと歴史記念館で企画展、講演会等イベントを実施予定。

（会議抄録）

平成 24 年 10 月 22 日（月）高山市内古代遺跡現地踏査：高山市文化財課 牛丸岳彦氏

平成 24 年 11 月 18 日（日）飛騨市内古代遺跡現地踏査：飛騨市生涯学課 三好清超氏

平成 24 年 12 月 9 日（日）岐阜県文化財保護センター収蔵資料調査、調査発表

：岐阜県文化財保護センター 三島誠氏

平成 25 年 1 月 19 日（土）文献資料からみた飛騨について

：高山市教育総務課 松本光生氏

エ) 体験事業

下呂ふるさと歴史記念館では、「展示を楽しく、またより深く理解する」きっかけづくりとして、製作体験「縄文体験」を平成 23 年度から実施している。コースは、古代アクセサリ作り（250 円）、縄文土製品作り（300 円）、ミニチュア縄文土器作り（500 円）の 3 コースで。春休み・大型連休期間・夏休みは、家族連れや女性グループで大変賑わった。アンケート調査では、「楽しみながら勉強できた」との感想も多い。体験学習は、「硬い」イメージの博物館を「楽しい」イメージに変える重要な事業柱と位置づけており、平成 25 年度も引き続き実施している。

（体験学習実績）

- ・ 古代アクセサリ作り 652 人
- ・ 縄文土製品作り 262 人
- ・ ミニチュア縄文土器作り 133 人 合計 1,047 人（前年度 1,228 人 14.7%減）

オ) 普及事業

特別な申請により学芸員が実施した館内の展示解説や出前講座、展示品の貸出は合計 33 件であった。学校教育、社会教育、観光のいずれの方面の特別利用に対応ができる博物館の基礎体制を今後も充実させたい。

カ) 広報事業

館内事業の周知のため、次の媒体を利用して広報を実施した。博物館のアンケート調査によると、周知をした翌月には広告を見た来館者があり、来館者増に一定の効果がある。

- ・市政だよりげろ：5月・7月・9月・11月の各号→博物館新規事業を周知
- ・SARUBOBO：7月号・8月号→夏季休暇中の館内イベントを周知
- ・下呂市 HP：市、観光双方で随時掲載し周知

キ) 歴史記念館事業への評価（アンケート調査・別紙参照）

平成 23 年度に引き続き、平成 24 年度には、当館の事業評価の一環として、来館者アンケート調査を実施した。アンケートは、展示に関する評価 5 項目、体験学習に関する評価 5 項目を設定し、5 段階で評価を受けた。常設展示に対しては、3.7～4.0pt、体験学習に対しては、4.1～4.8pt の評価を頂いた。前年度同様のアンケート評価と比べ、ほぼ横ばいの評価であった。

ク) 収蔵資料の収蔵環境改善事業

本事業は、市収蔵品から新たな価値を見出す博物館の基礎作業である。成果は展示事業にて公開される。平成 25 年度には収蔵資料台帳に整備された資料の一部を企画展で順次公開する予定である。

収蔵資料台帳の作成

- ・萩原地域寄贈古文書（区有文書）の収蔵資料台帳の作成。
- ・峰一合遺跡出土遺物の再整理（洗浄・注記・収納環境の改善）

寄贈品の受入

受入日	資料	点数	寄贈者名（敬称略）
24.9.6	火打金と火打石	1 式	今井幹誼
24.2.15	総勘定元帳	1 冊	今井清隆

ケ) 下呂ふるさと歴史記念館入館者数の推移

平成 23 年度に引き続き、平成 24 年度も引き続き上昇している。多くは観光客の来館であり、市民、学校授業での活用がいま一歩という観がある。特に今後、学校教育での活用推進を図りたい。

年度（4月～3月）	入館者数	前年比（%）
平成 23 年度	15,961 人	145.5%
平成 24 年度	18,321 人	114.8%

3) その他郷土館・資料館等の事業

小坂郷土館、金山郷土館、加藤素毛記念館、馬瀬歴史民俗資料館については、現在の常設資料を引き続き展示公開している。学校利用数については、小坂郷土館はなし、金山郷土館は東第一小学校 2 件、金山中学校 1 件の社会科見学利用、加藤素毛記念館は金山中学校 1 件、チケカン市国際交流事業見学が 1 件あった。

小坂郷土館は例年湯屋小学校の利用があったが、同校が閉校になったため、学校教育による利用がゼロになった。

（来館者数実績）

- ・小坂郷土館 842人
- ・金山郷土館 91人（展示解説等を実施した人数）
- ・加藤素毛記念館 150人
- ・馬瀬歴史民俗資料館 6人（希望者のみ開館対応）

◇市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学 ぶ】

① 生涯学習の推進

- ・公民館における生涯学習講座を充実し、市民のニーズに応じた指導者の確保と、市民の誰もが、いつでもどこでも学べる体制づくりを目指した。（講座数 96 講座募集、実施 70 講座）
- ・下呂市社会教育関係団体登録制度（使用料半額減免）により、公民館等を主な活動拠点とする団体の把握、及び団体への情報提供・団体同士の連携・仲間づくりを支援し、市民による公民館活動の充実を図った。（登録団体数 106 団体 前年度対比 8 団体増）
- ・平成 21 年 4 月 1 日に下呂市社会教育委員の会の諮問により「下呂市生涯学習のまちづくり人材バンク登録制度」を施行し、生涯学習に関する知識・経験・技能を有している人材を発掘。その情報の提供により、充実した市民の生涯学習を支援した。（登録件数：99 件、前年度対比 8 件増）
- ・平成 20 年 4 月に本稼動した図書館システムにより、市内五つの図書館(室)のネットワーク化、蔵書のデータ化など管理運営を向上させるとともに、市民にさらに親しまれる図書館づくりの充実を図った。平成 23 年度には、国の交付金事業を利用して図書館利用者の利便性の向上や、利用促進を図るため施設の整備、資料の購入などを行い、充実を図っている。絵本の読み聞かせや、折り紙教室なども積極的に行い、利用促進を図った。図書購入費（備品購入費）は年間 600 万円を確保し資料の充実に努めた。
蔵書冊数： 90,621 冊（前年度 83,451 冊） ※電算登録分、雑誌・視聴覚資料は含まない
登 録 率： 18.72%（前年度 16.36%）※市内外登録者÷人口 （市内登録者率 18.32%）
貸出点数： 101,733 点（前年 88,143 点 約 2 ヶ月下呂図書休館）※雑誌・視聴覚資料・団体貸出を含む

② 人権教育の推進

- ・学校、行政諸機関、各種団体等との連携により、人権教育や人権啓発のために作成されたポスターの掲示や機関誌の購入、研修会の案内をした。また、生涯学習講座の中に人権に係る内容（障がい者との関わり講座や手話講座）を取り入れ、啓発活動を推進した。

③ 市民の生涯学習の拠点となる施設の管理運営

- ・博物館、図書館等を除いて、社会教育課が所管する社会教育施設の利用状況は次のとおりである。
- ・市民の生涯学習の拠点施設となるべく、適切な管理運営を行った。

（社会教育施設の利用状況）

施設名称	延利用者数（対前年比）
星雲会館（萩原中央公民館）	35,867 人 （ 78.6%）
下呂市民会館（下呂中央公民館）	27,771 人 （106.6%）
金山市民会館（金山公民館）	18,271 人 （130.7%）
上記以外の公民館（10 館計）	50,442 人 （121.8%）
小坂山村開発センター	5,585 人 （108.8%）
いきいきセンター	1,356 人 （ 94.6%）
位山自然の家	6,080 人 （ 89.5%）
響会館	1,830 人 （100.8%）
市内の所管キャンプ場（山之口、中川原）	2,459 人 （117.0%）

◇だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】

(1) 生涯スポーツ社会の実現に向けた地域スポーツの振興

① スポーツ行政の見直しと市民の意識改革

- ・ 主催スポーツ事業の見直しの検討

下呂市総合型地域スポーツクラブ連絡会において地域スポーツ事業委託のあり方を検討、平成 25 年度より各地域ごとに契約していた同委託事業を集約し連絡会と一括契約することによって、経費等さらに精査していくようにした。

- ・ 里山あるきツーデーウォーキング事業の方向性を明確にする

総合政策課、観光課との合同会議を経て、下呂温泉里山あるき実行委員会を 2 回開催した。市内 5 地域を輪番で巡る大会形式に変更し、市民の健康促進や交流人口の増加、郷土を知るきっかけを創出するウォーキングイベントとして再編することとした。

② 住民自らが行う地域スポーツの振興と総合型地域スポーツクラブの育成・支援

- ・ 総合型地域スポーツクラブ連絡会の機能強化・地域間の交流と理解を進める
- ・ スポーツ推進委員とスポーツクラブ連絡会との連携調整を図り、一層の連携と協力体制を構築する

スポーツ推進委員の正副委員長も出席したスポーツクラブ連絡会を 7 回開催。スポーツクラブのない地域へのクラブ育成や連絡会としての新たな役割・事業の検討がなされ、H25 年度には地域スポーツ事業委託を連絡会が受けて、各地域で実施する試みをする事とした。

- ・ 地域スポーツ事業委託

総合体育大会をはじめ各地域のスポーツクラブ等がスポーツイベントを実施した。

(2) 競技スポーツの振興と優秀な競技者の育成

① 下呂市体育協会の自立支援

- ・ 事務局は N P O 法人萩原スポーツクラブが継続

市体育協会の事務を引き続き萩原 SC が体協を運営。事務移管により行政経費の削減、自主的な組織体制・運営の強化を図った。

② 優秀な選手・団体に対する表彰や激励金の交付

全国大会出場選手等激励会 8 回 激励金交付総額 220,000 円

市長や体育協会長から激励を受けることにより、選手の士気向上に寄与した。



インターハイ激励会



ぎふ清流国体・清流大会激励会

③ 見るスポーツ・支援するスポーツによる啓発

・第 67 回国民体育大会

観覧者 延べ 11,875 人 運営スタッフ 延べ 2,121 人 全国レベルの競技を見る機会となった。

・ひだ金山清流マラソン大会開催事業

清流マラソン参加者 673 名 市のマラソン大会として認知されており、多くの参加を得た。



第 67 回ぎふ清流国体



ひだ金山清流マラソン

(3) スポーツ施設の充実と活用促進

①社会体育施設等の充実

- ・旧湯屋小学校屋内運動場及びグラウンドを社会体育施設に用途を変更し利用を継続

湯屋体育館 利用者数 74 件 672 人 湯屋グラウンド 利用者数 16 件 341 人

湯屋地区におけるスポーツ交流の拠点として十分な機能を果たしているものの、今後の運営方法については校舎もあわせて再度検討が必要である。

- ・御嶽パノラマグラウンドの指定管理者制度による一体的な管理

御嶽パノラマグラウンド 利用者数 96 件 5,066 人（前年対比 163.1%）

濁河温泉高原スポーツレクリエーションセンターとの一体的な指定管理により、利用者数は 23 年度比 1,959 人の増となった。

- ・バスケットボールルール改訂に伴うコートラインの塗替え

下呂体育館、南部体育館、小坂体育館、金山リバーサイドスポーツセンターで新ルールに対応した会場環境を整備した。

事業費：1,250 千円

内 容：コートライン塗装工事

(4) 下呂市スポーツ振興計画の評価と推進体制整備

①計画の評価と再検討

- ・スポーツ振興計画の見直し

見直しに当たり現状把握のため11月～12月を回収期間としてアンケートを行ない(2,400人対象回収率51.5%)、アンケートを踏まえスポーツ振興計画の見直しを行った。

②推進体制の整備

- ・下呂市スポーツ推進審議会を開催
審議会を5回開催し、スポーツ振興計画推進・体制について検討した。



スポーツ推進審議会

■外部意見(下呂市社会教育委員の会、下呂市スポーツ審議会)

◇ 地域ぐるみでの、次代を担う青少年の健全な育成【育む】について

- ・ジュニアリーダー育成に関しては、実質、どの地区に何人くらいいるのでしょうか？資料には、行事の参加は載っていたのですが・・・青少年育成委員の方々のご協力もあり、参加者は多いようですが、ジュニアリーダーのなかでも、リーダー的な存在の子は育っているのでしょうか？なかなか高校生・中学生が集まるのは足の問題などいろいろあってむずかしいかもしれませんが、下呂市内には、日本レクリエーション協会公認の指導員が何人かいるので、その人材を生かしたりして、行事の打ち合わせだけでなく、定例会のような集まる機会をもたれるといいと思います。

ジュニアリーダーに限らず、子ども達が早い段階から地域に関わっていくことは、これからの人作り、地域作りにとっても重要なことだと思います。

- ・親学び講座などの各種子育てに関する講演会などの行事がありますが、いくら母親が学んでも両親が同じ目線で子どもに接しなければ子どもは迷ってしまいます。できれば、父親も参加できる工夫をされれば、母親の気持ちにも気づくこともできるので、父親参加の行事ができるといいですね。

◇ 市民に活力と潤いをもたらす文化の振興【親しむ】について

- ・会場の規模、参加団体等課題はあるものの、市全体の文化祭が開催されたことは、有意義でした。
- ・ふるさと歴史博物館については、以前より宣伝活動もさかんに行われているし、体験活動、作品づくりなども取り入れて、入場しやすくなる工夫がされていると思います。先日、何年かぶりに入館し、中を拝見させていただきましたが、かなり興味深い展示も多くあり、もっと多くの方に知っていただけるよう、尚、いっそうの周知活動を期待します。また、車に乗らなくても行けるような、観光客を取り込む工夫も、下呂病院へのバス路線を変更される折、博物館への延長をお願いできるといいと思います。

- ・博物館も色々な企画をされ、訪れることが楽しみになるなど、良い方向に改革されていると思います。今後も博物館の価値を上げることに努力されることを望みます。

◇ 市民の視野を広げ、生きがいを深める生涯学習の推進【学 ぶ】について

- ・図書館の運営について、以前他の図書館に行ったり、色々な議論をしたことが、少しずつ現実化され、以前より多くの市民が、本の貸出しを簡単に利用できるようになりました。

◇ だれもが楽しく気軽にスポーツに親しめる環境づくり【楽しむ】について

- ・スポーツクラブの運営に関し、難しいでしょうが、将来的には同じ条件で運営出来るよう望みます。
- ・御嶽マラソンや実業団駅伝などのイベントは一度やめてしまうと、復活させることが非常に難しい。そういう重要な情報があれば審議会にもっと相談してほしい。
- ・御嶽パノラマグラウンドは非常に良い施設で、合宿などでも非常にいい成果が上がる。以前は自然の家を安く利用できたが、現在は宿泊代がネックになっていると思うので検討いただきたい。
- ・ラジオ体操が見直されてきており、チャンネル下呂など放送媒体を通して運動機会を作る取り組みをしてはどうか？
- ・社会体育については、体力・技術を伸ばすことも大切ですが、健康維持・病気やけがを防ぐための健康体操なども福祉課と連携して下呂市民の多くの人に参加できる工夫をされるといいと思います。(ケーブルテレビを活かしてどこかに出かけなくても、家でもできる工夫とか・・・)
- ・下呂市のスポーツにつきましては、萩原スポーツクラブの活動が活発であり、会員が十分施設を利用し、良いと思っています。今後は、小坂、金山、馬瀬にも萩原スポーツクラブのような組織が出来ると良いと思います。また、体育協会の組織も、それぞれの競技に予算をつけ応援しています。それによって、少人数の競技、クラブでも維持できていると思います。今後は、指導者の育成に力を入れていかなければならないと思います。また、意欲のある方なら誰でもスポーツが出来る環境を整えることが大切です。ポイントは、スポーツを続け、体力を維持し、目標をもち楽しく活動が出来、仲間との交流が続く組織にしなければならないと思います。それがスポーツが長く続くコツでもあります。そして、子どもたちにスポーツの楽しさを教え、大人と子どもの交流が出来るのもスポーツの良いところだと思います。私自身、スポーツの指導に携わることがなければ、子どもと接することがありません。子どもとコミュニケーションがとれることは楽しいことです。スポーツを通じて、健康で明るい日々を過ごせることが充実した人生を送れることだと思います。

(資料1 下呂ふるさと歴史記念館利用アンケート)

下呂ふるさと歴史記念館アンケート調査

アンケート期間/平成 24 年 7 月 25 日～9 月 14 日 有効回答数/121 人(体験受講者に限る)

【常設展示】

居住域	アンケート数	点数細別	評価項目(5段階評価)				
			展示資料の量の適正さ	展示資料の充実度	説明文の量の適正さ	説明文の内容の充実度	歴史教育材料有効性
下呂市	9	総点数	29	28	28	28	32
		平均値	3.2	3.1	3.1	3.1	3.5
高山市	1	総点数	4	4	4	4	4
		平均値	4	4	4	4	4
岐阜県内	20	総点数	80	85	80	83	85
		平均値	4	4.2	4	4.15	4.25
愛知県内	46	総点数	178	183	177	181	183
		平均値	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9
関東地方	14	総点数	53	59	58	59	54
		平均値	3.7	4.2	4.1	4.2	3.8
関西地方	7	総点数	26	27	26	3	32
		平均値	3.7	3.8	3.7	4.2	4.5
三重県内	2	総点数	7	7	8	8	7
		平均値	3.5	3.5	4	4	3.5
富山県内	2	総点数	6	6	6	6	6
		平均値	3	3	3	3	3
その他	0	総点数	0	0	0	0	0
		平均値	0	0	0	0	0
全 体	101	総点数	383	399	387	372	403
		平均値	3.8	4.0	3.8	3.7	4.0

【体験学習】

居住域	アンケート数	点数細別	評価項目(5段階評価)				
			受付時間帯の適正さ	体験内容の充実度	体験時間の適正さ	体験担当員の解説	歴史に興味を持つ契機度
下呂市	11	総点数	51	53	53	52	50
		平均値	4.6	4.8	4.8	4.7	4.5
高山市	1	総点数	5	5	5	5	5
		平均値	5	5	5	5	5
岐阜県内	27	総点数	118	126	126	127	122
		平均値	4.3	4.6	4.6	4.7	4.5
愛知県内	50	総点数	215	245	243	245	229
		平均値	4.3	4.9	4.8	4.9	4.5
関東地方	14	総点数	32	65	71	68	62
		平均値	2.2	4.6	5	4.8	4.4
関西地方	13	総点数	61	61	55	63	57
		平均値	4.6	4.6	4.2	4.8	4.3
三重県内	2	総点数	7	5	7	10	10
		平均値	3.5	5	3.5	5	5
富山県内	2	総点数	7	7	7	7	7
		平均値	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
その他	1	総点数	5	5	4	5	4
		平均値	5	5	4	5	4
全 体	121	総点数	501	572	564	582	546
		平均値	4.1	4.7	4.7	4.8	4.5

(資料2 下呂ふるさと歴史記念館普及事業)

・展示解説、体験学習、出前講座

(新聞各社とケーブルテレビの取材は除く、※は学校教育利用)

実施曜日	団体名	目的	対象人数
24.4.27(金)	加子母小学校 6 年生※	展示観覧・製作体験	37 名
24.5.12(土)	東海縄文文化研究会	下呂市内出土土器見学	30 名
24.5.13(日)	東海縄文文化研究会	下呂市内出土土器見学	30 名
24.6.13(水)	アメリカ合衆国アラスカ州 ケチカン市学生・親	展示観覧・製作体験	19 名
24.6.22(金)	アメリカ合衆国フロリダ州 ペンサコーラ市学生・親	展示観覧・製作体験	7 名
24.6.28	竹原郷土史会	出張講座「三木氏について」	25 名
24.7.6(金)	中原小学校 2・3 年生※	展示観覧・峰一合公園見学	14 名
24.7.7(土)	飯田市市民団体	展示観覧	20 名
24.7.21(土)	中津川市苗木遠山史料館	出張講座 「大威徳寺跡について」	40 名
24.8.3(金)	飛騨地区小学校社会科部会 ※	展示観覧・製作体験	52 名
24.9.11(火)	岐阜大学講座 1 年	展示観覧・峰一合公園見学	30 名
24.10.12(金)	下呂市生涯学習講座	講座「骨董を楽しむ」	5 名
24.11.15(木)	中原小学校 6 年生※	展示品及び峰一合遺跡見学	9 名
24.11.16(金)	揖斐川町の歴史を考える会	史跡・大威徳寺跡の見学	20 名
24.11.22(木)	竹原郷土史研究会	出前講座「下呂市内の城跡」	15 名
25.2.10(日)	組曲下呂市物語実行委員会	司会・下呂石の解説	160 名

・収蔵資料の特別閲覧等申請

許可日	団体名・居住地等	目的	人数
24.4.3	下呂市萩原町古関住民	古文書資料の閲覧と撮影	1 名
24.4.9	長野県松本市住民	古文書資料の閲覧	4 名
24.5.16	岐阜市住民	峰一合遺跡出土土器の閲覧	1 名
24.5.28	敦賀短期大学教員	峰一合遺跡出土土器の閲覧	2 名
24.5.28	中津川市苗木遠山史料館	大威徳寺跡の調査図面・写真	
24.7.8	下呂市萩原町古関住民	古文書資料の閲覧と撮影	1 名
24.7.17	群馬県桐生市住民	古文書資料の撮影と書籍掲載	1 名
24.7.24	(株) 流行発信	峰一合公園の撮影・書籍掲載	
24.8.8	小川屋	自社 HP への歴史記念館製作体験の掲載	
24.8.21	(株) パレオ・ラボ	峰一合遺跡出土遺物撮影	1 名
24.9.25	下呂市萩原町古関住民	古文書資料の閲覧と撮影	1 名

24.10.2	下呂市萩原町古閑住民	古文書資料の閲覧と撮影	1名
24.10.10	愛知県一宮市住民	企画展の「岐阜ブログ」掲載	1名
24.11.18	山形屋	自社HPへの歴史記念館製作体験の掲載	
24.12.10	飛騨農業共済事務組合	自社広報誌「根っ子」への歴史記念館製作体験の掲載	
25.2.8	中部日本放送(CBC)	下呂ふるさと歴史記念館展示室風景の撮影と下呂石の解説	

・下呂市収蔵資料の貸出

許可日	団体名と期間	目的	借用数
24.6.20	中津川市苗木遠山史料館 24.6.20～24.9.25	企画展「加子母地域の歴史と文化展」に展示する	陶磁器2点

(資料3 スポーツに関する市民アンケート)

スポーツに関する市民（一般）アンケート調査結果

下呂市教育委員会社会教育課

1 調査の目的

本調査は、下呂市民のスポーツ活動に関する現状やニーズを調査し「下呂市スポーツ振興計画」見直しや今後の下呂市のスポーツ推進の基礎資料とするため。

2 調査対象など

調査対象

19歳以上満80歳までの市民26,362人

※平成24年8月31日現在、※外国人は含まない

標本数 2,000人（前回1,000人）

抽出方法 地域別に無作為抽出

調査方法 郵送回収

調査期間 平成24年11月1日～12月31日

回収数及び回収率 1,047人、回収率52.4%（前回87.3%）

3 結果概要

・健康について

自信があると答えた人は43.8%と前回調査から2.7ポイント減となった。

・スポーツを見る（応援する）ことについて

見る（応援する）ことが好きな人は、「好き」「やや好き」を合わせると80.1%となっており、前回調査から4.5ポイント増えた。

・見る（応援する）ことが好きなスポーツについて

前問で「好き」「やや好き」と答えた人が「見る（応援する）ことが好きなスポーツ」は「野球」（15.1%）が最も多く、「バレーボール」（13.2%）「サッカー」（8.8%）「ゴルフ」（6.5%）「陸上競技」（6.4%）と続く。前回は「野球」（18.8%）「バレーボール」（15.6%）「サッカー」（7.7%）「陸上競技」（6.7%）「ゴルフ」（6.1%）の順。

・スポーツをすることについて

「好き」「やや好き」を合わせると60.5%となり、前回調査から3.3ポイント増えた。

・することが好きなスポーツについて

前問で「好き」「やや好き」と答えた人が「することが好きなスポーツ」は「バレーボール」（10.7%）が最も多く、「ウォーキング」（10.1%）「ゴルフ」（8.8%）「ボウリング」（7.5%）「野球」（6.8%）と続く。前回は「バレーボール」（13.6%）「ソフトボール」（12.6%）「野球」（11.9%）「ゴルフ」（7.0%）「テニス」（5.9%）の順。

・軽スポーツについて

したことが「ある」と答えた人は51.9%となった。そのうち、したことの軽スポーツで最も多かったの

は「グラウンドゴルフ」(49.4%)であった。また軽スポーツをしたことが「ない」人が、軽スポーツにチャレンジしたいかたずねたところ、「したい」「興味がある」を合わせて 60.8%となった。

・ スポーツの実施について

日常的にスポーツをするかたずねたところ、「する」と答えた人は 29.1%となった。その内「週 3 日」以上する人は 39.6%、「週 1 日」する人は 42.3%となっており、週 1 日以上の実施率は 23.8%（「週 3 日」以上は 11.6%）であった。その一方「しない」と答えた人は 70.0%あり、前回から 7.5 ポイント増えている。スポーツをする目的（理由）については「健康の保持、増進のため」が 28.1%で最も多かった。また日常的にスポーツを「しない」人のしない理由として「時間的余裕がない」が最も多く 44.3%であった。

※スポーツ実施率とは、週に 1 日以上の実施者の割合をいう。

$$(\text{週 5 日以上の実施者数} + \text{週 3 日の実施者数} + \text{週 1 日の実施者数}) \div \text{回答者数} \times 100$$

※国のスポーツ基本計画は、週 1 日以上の実施率が 3 人に 2 人（65%程度）、週 3 日以上の実施率が 3 人に 1 人（30%程度）となることを目標にしている。直近の調査では、国は 45.8%（平成 21 年）、県は 43.6%（平成 24 年）となっている。

・ スポーツ団体（サークル等）の加入について

「加入している」と答えた人は 16.5%となった。

・ あるといい（整備してほしい）スポーツ施設について

「ある」と答えた人は 21.3%となった。